

## 第4回津山市小中学校の将来構想検討委員会会議録【概要】

○日 時 令和4年5月24日（火）10:00～12:00

○場 所 津山市役所 議会棟 第1委員会室

○出席者

・津山市小中学校の将来構想検討委員会委員8名

委員長 高塚成信（岡山大学学術研究院教育学域教授（特任））

副委員長 森本宏伸（津山市立鶴山小学校長（津山市小学校校長会））

委員 宮本有二（退職校長現美作大学非常勤講師）

大山正志（津山連合町内会副会長（東苫田支部長））

松田和也（津山青年会議所）

櫛田晃稜（津山市PTA連合会副会長）

神田智弘（津山教育事務所次長）

菅原雅子（津山市立加茂中学校長（津山市中学校校長会））

事務局 教育長、教育次長

教育委員会関係課長等8名

### 1. 開会挨拶（委員長）

前回までの会議にて、過小規模校への対応策について意見をいただいた。津山市の子どもたちの学びを支える、学び合いの場をどうするのか。小学校と中学校の間で大きな段差が存在する。その段差を無くすためどう連携するのか。過小規模校になるのを見越してこれらのことを実現するため、いろいろな選択肢を示しながら議論してきた。

何かを選び取るということは、それによって得られるものと失うものがある、トレードオフの関係にある。私たちの委員会のミッションは、ある選択肢を選ぶべきより良いもの、ベストなものとして提示するのではなく、選択肢のプラス面、マイナス面を様々な角度や立場から議論し、今後、教育委員会と地域の方々が、各学校区において、地域や子どもたちの将来にとって適切だと選択し合意形成するために情報を提供することである。

今回は、いろいろな選択肢のプラス面マイナス面をより明確にしたい。

### 2. 協議

#### （1）学校教育の体制整備の方策について

##### 【事務局説明】

- ・第3回委員会会議録より第3回会議の要点
- ・学校教育の体制整備の方策（複式学級、小学校の統合、小中一貫型小学校中学校、義務教育学校）

##### （委員）

学校教育の体制整備のプラス面マイナス面について協議いただきたい。

私から2点話をさせていただきたい。1つは、過小規模校は教員の加配によって単式学級を維持することも可能であるが、この表では単式学級については考慮外としていると思う。

もう1つは比較の視点について、選択肢ごとにメリットデメリットをまとめているが、必ずしもそれぞれの選択肢が持っている潜在的なプラス面、マイナス面について網羅的ではないと思う。例えば、子どもの学習の成立や各選択肢で求められる教員の免許状の取得など、もう少し多面的な評価の視点を設けないと、偏った評価を導き出すのではないかと危惧している。

地域住民の方が十分な情報を得て、判断していく素材になるためには、いろいろな情報を網羅的に示していくことが肝要ではないかと思っているので忌憚のない意見をちょうだいしたい。

(委員)

経験上小規模校ほど、地域とのつながりは深いと思う。学校は地域のコミュニティの中核だと思っている。お父さんもおじいちゃんもこの学校だったと、世代をつないで、長い間の世代をつなぐコミュニティの中核でもある。

この会議で子供の数が減ってきたから、学級が維持できなくなったから、統合した方がいいというのは違うような気がする。未来へ向けて子供の教育にとって何が一番有効なのかを考えていかなければならないと思う。

具体的にこの小学校とどこの小学校を統合するとか、町内をどういうふうにするかということは、委員会に課せられたことではないと思う。子供中心に考えて、地域を中心に考えて、未来に向けてどんな教育が一番有効なのかを考えたときに、文部科学省が示す9年間を通した小中連携や義務教育学校など、9年間を通した教育をどうしていくかについて津山の実情に合わせて考えていくときがもう来たのではないかと思う。

(委員)

学校が地域コミュニティとの互惠性を維持していきながら、子どもの学び、将来をどのように構築していくのか、その上で9年間を通した学びをどのように支えていくのかを考えていくべきだろうと思う。

9年間の学びを支えるという意味では、小中一貫型小中学校化と義務教育学校化という2択があるがその区別が必ずしも明確ではない、あるいは、保護者が選択するときに情報として十分ではないと思う。例えば、新庄村では2019年に小中一貫型の小中学校になるとした。隣同士にある学校なので、義務教育学校に移行しても構わないところ、小中一貫型の小中学校で9年間の学びを支えていくとした。義務教育学校は、教員の免許状について小中学校の併有が求められる。そのとき教員の確保は1つの地域でできるのかということも議論する必要がある。そのため選択肢を洗い出すことが大事だろうと思う。

(委員)

P T A、保護者の立場から。このような学校があれば9年間しっかりとした学習ができるとは思いますが、保護者としては、通学や学校からのサポート面に難しい面もあるのではないかと思う。

コミュニティスクールについては、小学校、中学校と地域が一体となって取り組んでいる中で、学校教育の体制整備の方策が変わることによって、また新たに作るのは難しいのではないかと思う。

(委員)

保護者への負担、コミュニティスクールを全校で導入しようとしている津山市の施策との整合性、地域密着型で地域から学び、地域の方に支えていただくことを進める一方で、統合していくことは、学区を広域化していくことになり、地域との関係性を希薄にしていくことがあるのではないかという指摘である。

(委員)

北陵中と弥生小は大型の中学校、小学校であるが、中学校と小学校がほぼ同じところあり、施設の共有化や、中学校の先生が小学校へ、小学校の先生が中学校へ行き来ができないものかと考える。プール、体育館、グラウンドの共有。遠距離通学という問題もあるが、地域と学校が話をする場があればと思う。

(委員)

過小規模校のみならず、適正規模を維持している学校でも隣接している学校同士で、小中一貫型の小学校中学校をやっていけば、9年間の学びを両者で一体的にサポートしていけると思う。小中一貫型小学校中学校は、過小規模校に特化した施策、選択肢ではなくて、既存の学校が小中を一体的に運営していくという選択肢であると考えられる。全体として小中一貫を制度として学校の体制整備を推し進める場合は、単に小学校の統合や既存の小中で連携するというのではなく、制度として小中一貫型の小学校に移行していくという選択肢もあると思う。

(委員)

学校ができるときに通学路すら小学校と中学校を分けた。上級生が指導しながら連れて行くこともあっていいのではないかと思う。

(委員)

県北は、過小規模の学校が増えてきている。児童数は段々と減り、どこかで加速度的に減る。津山市では、今後5、6年過ぎたときに過小規模の恐れのある学校もある。その状況になってどうするかではなく、津山市としてどのような学校をつくるか、その地域に併せて学校をどうしていくかを積極的に、子どもたちにどういう学びをさせたいかというのをしっかりと話をしながら、最適なものを選んでいくべきと考える。

新庄村では、地域に根ざした教育をしようと、地域を支える子どもたちを育てようという事で選択したと思う。現在は小学校と中学校の職員室が1つになり、校長は2人いる。小中の取組は進んだように感じる。そこでの課題、デメリットを明らかにしながら今後どういう教育をするか議論すべき。

義務教育学校がもうすぐできる美咲町について、地域に愛着を持ち地域のフィールドに探求的な学習をする子どもを育てることをしっかりと話し合い、その中ではデメリットも話をしたと思う。例えば小学校では、5年、6年に年上の意識も芽生えて成長するが、9年間になるとどうなるのか。また、これまで中学校に上がるときにいい面でも悪い面でも人間関係が変化してきたこと、先生の免許の問題、それらをクリアするようなカリキュラムを作る、または、県教委に人事を相談する。このようなことを津山市でも話し合う必要がある。

(委員)

実際にそういう状況が起こる前にしっかりと子どもたちの学びをどうしていくのかというのを議論して対応を考えていくのが重要だということで、美咲町や新庄村の事例を紹介いただいた。

義務教育学校の課題について、9年間同じ学校に居続けることは子どもの成長にプラス面とマイナス面があることを洗い出すべき。小中一貫型小学校中学校と義務教育学校は、子どもの学びという意味では同じような役割を果たす学校だと思う。それを敢えて義務教育学校化するのであれば、メリットをもう少し明確化する必要がある。新庄村では、既存の学校を残し、教職員は一体化し、校長が2人居る。管理職は2人居るほうが職員に対する面倒の見方が違う。

これは県立中高一貫校も同じことで、津山は県立津山中学校であり、県立岡山津山高校であって、併設型の中高一貫校であるが、中等教育学校にはなっていない。結局岡山では大安寺中等教育学校しかない。もしかすると小中一貫型のオプションのほうが、ある意味柔軟性を持っているのではないかと推測できるが、実情は私もわからない。それを教育委員会からいろいろと情報を提供してくださることが必要だと思う。

今後公立中学校の複線化をさらに推し進めることにもなりかねないので、慎重にならざるを得ないと思う。公立と私立が役割を分担して複線化してきたが、公立学校、県立学校が複線化してきている。義務教育の段階で公立がして本当にいいことなのか。大都市では問題視されている。学校のブランド化を推し進めることもあり、慎重な議論を進める必要があると思う。

メリットは十分に認めるが、小中一貫型小学校中学校で十分可能であるにもかかわらず義務教育学校とするのは議論すべき。

(委員)

最優先に考えるべきは子どもの未来や学び。少し方向を変えると少子高齢化や労働人口の減少であり、学校の未来を考えたときに果たして教員の分散化が、何十年か先に可能なのかということは危惧するところ。質の高い教育を目指したときに、児童生徒が何人いれば人間関係が調整できるのかということと、教員も同じではないか。高め合える環境を整備しないといけない。教える方々のスキル、向上心を持たなければいけないと思う。

効率を求めて過小規模学校を義務教育学校化すべきだという話ではなく、子どもの未来を最優先に考えたときに学校教育環境が効率化されて素晴らしいものになっていけばと思う。

一方で、学校の母体が大きくなればなるほど、連絡の不行き届きなどのデメリットも発生するのではないかなと思う。デメリットや高齢化を、1つのメリットと考えたときに、地域とつながる仕組みができれば規模が大きくなっても、最適化を目指せるのではないかなと思う。

(委員)

私自身教員養成に関わっているが、小規模であればあるほど校内研修が単独ではなかなかということがあり、複数校が合同で行うことになると思うが、子どもの学習の質を考えながら、教育規模が小さくなるというデメリットもしっかりと議論していかなければならないと思う。

今回は、義務教育学校について、2016年からの制度の中で、様々な事例があると思うので、小中一貫型の小学校中学校と義務教育学校の情報を収集して提供していただきたい。

また、比較の視点で話をしたときに敢えて触れなかったが、財政面でどのような経費を市が負担していくことを強られるのか、あるいは国の補助金との関係等を整理して、優劣をつけるわけではないが、情報として提供していただく必要があると思う。

(休憩)

(2) 提言書の構成案について

**【事務局説明】**

- ・ 提言書の構成案

(委員)

事務局からの説明では、提言書は4つの章からなり、今後の津山市の学校教育のあり方、魅力ある学校づくりの方策、学校教育の体制整備の方策という項目で構成している。これまでの協議内容を網羅すべく項目立てをしていただいた。また、学区についても明確に項目として入れていただけたことは非常にありがたい。

委員の皆様方からお気づきの点はないか。全体の構成について、もちろん今後修正もできるが、全体的な構成はこのような形で進めさせていただいてよろしいか。

〈全員了承〉

(委員)

それではこれを基本としながら議論に応じて修正もあり得るということで進めさせていただきたい。

**【事務局説明】**

- ・ 1章 今後の津山市の学校教育のあり方

(委員)

津山市教育振興基本計画第3期に基づいて、今後の津山市の教育のあり方をまとめたいと思うが、2章の学校づくりのあり方について重視すべきものの中で、3つを取り上げているが、基本計画での考え方を受けた上でしっかりとした3項目になっていれば、つながる形としてうまくまとまっていればよいと思う。

1章はかなり広い範囲のことが述べられている。それが2章の3つのアプローチでしっかりとカバーしていけるものなのか不安がある。1章、2章がうまくつながるように1章をコンパクトにまとめるのがいいと思う。基本計画の全体や基本的な取組を受けた形にはなっていないのはわかるが、つながる形にさせていただきたい。

**【事務局説明】**

- ・ 2章 魅力ある学校づくりの方策

(委員)

第2章の魅力ある学校づくりについて説明をいただいた。

私から3点。1つは、2章の魅力ある学校づくりの方策を受けて3章の学校教育の体制整備の方策に進んでいくと思うが、こういう魅力ある学校づくりをしていかないといけないとして学校の体制整備はこうあるべきだと、連続していくものだと理解している。そのときに学校づくりにおいて重視すべきもののうち、(2)時代の進展に対応した学校づくりについて、どのようにして3章の学校教育の体制整備の方策につながるのかと少し心配する。インターネットやスマートフォン等の急速な普及は、時代の進展に対応した学校づくりという視点からすると、小規模であってもオンラインでつながる環境は以前より遙かにできているので、必ずしも小規模だからといって学び合いができないということではない。そのため時代に対応した学校づくりということで議論した内容が必ずしも(3)の体制づくりにつながらないのではないかと思います。そこが1つの課題だと思う。

1つは、(3)地域とともにある学校づくりで、地域の愛着や地域の課題解決ということで、地域ぐるみで子どもの9年間の学びを支える仕組みが必要ということであるが、これは(1)小中連携による学校づくりに含まれるのではないかと思います。9年間を通した学びと地域とをつなぐ。(3)では混在させているというか、小中連携が9年間ではないのかと思ったりするので、その棲み分けというか、うまく進めることができたかなと思う。

もう1つ、(1)小中連携の学校づくりの3つ目のポツ、中学ブロックでの取組の目的を明確化・共有し・・・という箇所であるが、学校全体での取組ということは、中学校ブロックでの小中一貫型の小学校でも中学校でも当てはまると思うが、もう少しわかりやすくしなければならぬと思う。この3点について今後検討できればと思う。

(事務局)

3点について委員の皆様から意見をいただきたい。

(委員)

(1)の3つ目のポツですが、小学校も中学校も様々な小中連携を行っている。小さい学校は小さい学校なりに、大きい学校は大きい学校なりに行っている。また、それが小中一貫の成果を上げるためとなっているのが、小中一貫のためにではなくて、子どもたちのためにやっていることの1つが小中連携である。小中一貫教育を選択するのはいいが、そこに向けて小中連携をしているのではない、それだけがすべてではないということを加えていただければありがたい。

小規模校になると、自分を表現できない人間関係もあつたり、それを打破するためにいろいろと揺さぶりを仕掛けているが、どういう集団でも自分の意見が発表できたり、皆の良さを共有できたりする生徒を育てたいと思う。皆がいろんな意見が言えたり、お互いを認め合えたりする学校をつくるとすればどの形態が一番良いのかということも加えてほしい。

(委員)

そういう取組をしているので、より進めていかなければならないと思う。この3つにこだわわけではないが、4つ目の柱を新たに加えたときに、中身が十分にあるということが重要なので、それを見極めた上で、(1)(2)(3)のどこかに加えるかを検討したいと思う。

(委員)

2章はこれまでの議論を踏まえてまとめてあるが、1章のところ、津山市教育振興基本計画の基本理念の中に「つながり」があり、その中で、地域とのつながり、世界とのつながり、歴史文化とのつながりがある。例えば、子どもたちが多様な自分の考えを表現するということがもう少し出すことができれば、3章につながるのではと思う。

津山市が重要視している読解力も、ただ本が読めればいいということではなく、コミュニケーションも踏まえてどこに加えるのか、もう少し追記するかを検討すれば3章にもつながると考える。

(委員)

これまで議論してきたように、学び合い、小中連携、地域とともに、大きな柱であると思う。学び合いは、そのものを重視すべきとタイトルとして独立させたほうが良いと思う。小中連携、地域とともに、多様な人とのつながり・学び合いの3つ。

時代の進展に対応した学校づくりというのは、少し3章へのつながりが希薄で、むしろ3章へのつながりを妨げるような内容にも成りかねない。残すとしても人とつながる・学び合うと1つにしたほうが良いと思う。

(委員)

小、中、地域と経済界が1つの地域にあり、子どもたちを支えている。子どもたちは職場体験などをして、経済界と支え合うという面がある。そういった面も加えたほうがわかりやすい。

(委員)

松田委員が行っている地域と企業との関わり合いや子どもと企業との関わり合いも勉強できたらと思う。他の場所で扱うのが良ければそのように検討してもいいかも。時代の進展に対応した学校づくりの中身が気になる。個別最適化は私たちがしっかりと検討したものではなく、学校の体制整備の中で議論もできていないため、とってつけたような感じが否めない。

これまでのところつながりを欠くような気がする。

今後小中一貫型、義務教育学校のプラスマイナスを議論しないといけないと思う。

(委員)

学校によってオンライン化を進めているところもあり、一人でも連携ができるのではないかということだが、今度は協働的な学びをどうするかというようなことに行くような気がする。例えば不登校の子もオンラインにすればいいというものではなく、それを利用して不登校の子が他の子や人とどうつながっていくかに根ざしている。ICTにはコミュニケーションが付いている。

(委員)

人と人をつなげるツールとしてのインターネットであり、コンピューターであるという視点で考えればつながりということになるという話であったと思う。

それでは今いただいた意見をもとにさらに議論をしていくことでご理解いただきたい。

今回は2つの章について検討事項が出されたので、次回に向けて事務局で検討いただきたい。3章は、第5回で中味について議論をさせていただくという形でもよろしいか。次回第5回では、第3章の案はないという理解で良いか。

(事務局)

今日の議論を踏まえて、たたき台を示したいと思う。

(委員)

承知した。それではそれに加えて積み残している義務教育学校や財政面という視点、また他に欠けている視点を補充し、その議論も平行して進めることでよろしいか。

〈全員了承〉

(事務局)

地域の皆さんには、検討していただくための情報提供としての提言書という整理をしていただいたので、つながる資料を用意させていただきたい。

### 3 その他

(事務局)

- ・第5回検討委員会の日程 令和4年7月4日(月) 10:00開会
- ・今後のスケジュールについて、9月22日教育委員への提言書お提出を目標とし、また、全7回としていたものを1回増やし、全8回とする可能性があることを承知いただきたい。

〈全員了承〉

閉会